

平成24年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
 兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
 最終日：平成24年5月27日(日)
 会場：岐阜メモリアルセンターで愛ドーム

男子の部

<審判>

5位決定戦 中津川工	63	$\begin{bmatrix} 12 & - & 15 \\ 21 & - & 10 \\ 20 & - & 14 \\ 10 & - & 20 \end{bmatrix}$	59	長良	大豆村斉・佐伯和哉
決勝リーグ 美濃加茂 (2勝)	78	$\begin{bmatrix} 19 & - & 10 \\ 22 & - & 14 \\ 18 & - & 25 \\ 19 & - & 9 \end{bmatrix}$	58	岐阜農林 (2敗)	角平和慶・中村祐貴

美濃加茂は3-2ゾーンディフェンス、岐阜農林はハーフコートマンツーマンで始まる。美濃加茂は、⑥范のスティールからゴール下でシュートを決めると、インサイドで⑧赤土、⑥范が次々にシュートを決め、リードを奪う。岐阜農林は立ち上がりなかなかシュートが決まらなかったが、⑪田中がジャンプシュートを決め食い下がる。第1ピリオドは美濃加茂が19-10とリードする。

第2ピリオドに入ると美濃加茂はディフェンスをマンツーマンに変え、高いリバウンドから速攻に持ち込み⑤高橋、⑧赤土が立て続けにシュートを決める。岐阜農林は⑮酒井の3点シュートなどで追いつけるが、思うように得点が伸びない。前半は美濃加茂が41-24とリードして折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂は⑥范、⑧赤土の高さを生かし、ハイロープレーなどで得点をあげていく。しかし、岐阜農林はここから懸命な反撃を見せ、⑪田中、⑫水口が次々にジャンプシュートを決め、⑨野原の3点シュートが決まり、59-49の10点差まで追いつける。

第4ピリオド、美濃加茂はディフェンスリバウンドを確実に取り、⑧赤土の速攻やインサイドのハイロープレーなどで相手の反撃を許さない。最後は美濃加茂が78-58で勝利して、決勝リーグ2勝目を勝ち取った。岐阜農林も積極的なプレーで反撃を試みるが、シュートの成功率が下がり、追いつけられなかった。(岩井憲司)

決勝リーグ 岐阜総合 (2勝)	64	$\begin{bmatrix} 26 & - & 9 \\ 21 & - & 14 \\ 15 & - & 15 \\ 2 & - & 19 \end{bmatrix}$	57	富田 (2敗)	棚橋英一・野々村日希
--------------------	----	--	----	------------	------------

両チームともにハーフコートマンツーマンで始まる。立ち上がり固さから両チームにミスが続く。岐阜総合は⑨菅野の3点シュートとドライブをきっかけに、テンポよくシュートを決める。さらに6分、岐阜総合はディフェンスを3-2ゾーンに切り替えて流れをつかみ、④谷の3点シュート、⑤大野のドライブなどで得点をあげ第1ピリオドを26-9とリードを奪う。富田は、1年生⑬山田の3点シュートとドライブで懸命にこらいつく。

第2ピリオド、岐阜総合はうまくボールを回しながら、⑧林が3点シュートを、また⑥松岡、⑬信田のギャップアタックからのショートコーナー合わせなどで確実に得点を重ね、前半を47-23で折り返す。富田は、途中ディフェンスを2-3ゾーンに切り替えてプレッシャーをかけ、⑤加藤の3点シュートなどで追いつけを図るが点差は縮まらない。

第3ピリオド、両チームともにディフェンス、リバウンドを頑張り、互角の流れとなる。岐阜総合は適確なパスから⑧林、⑨菅野がシュートを決める。富田は⑬山田、⑭桑原のガード陣がゲームをコントロールしながら、徐々に流れをつかむ。

第4ピリオド、岐阜総合は7分間ノーゴールと苦しい時間帯もあったものの、終始落ち着いたゲームコントロールで64-57で逃げ切り決勝リーグ2勝目をあげた。富田は必死なディフェンスから全員が走りきり、5連続ゴールなどで7点差まで詰めよるが、序盤の失点を取り戻すことができなかった。(矢追雄一)

決勝リーグ	美濃加茂 (3勝)	89	$\begin{bmatrix} 17 & - & 13 \\ 20 & - & 22 \\ 22 & - & 20 \\ 30 & - & 22 \end{bmatrix}$	77	岐阜総合 (2勝1敗)	相宮俊郎・名越龍男
-------	--------------	----	--	----	----------------	-----------

両チームともに、ハーフコートマンツーマンでスタート。美濃加茂は⑥范、⑧赤土がリバウンドをきっちり取り、チャンスを広げて得点をあげる。岐阜総合は相手がインサイドにボールを入れるとダブルチームを仕掛けてミスを誘い、⑨菅野を中心にシュートを決める。第1ピリオドは美濃加茂が17-13とリードする。

第2ピリオド、美濃加茂は守っては相手の⑨菅野を徹底マークしてボールを持たせず、攻めては④平佐田を中心にパスを回し、内外角のバランスよく得点を重ねていく。岐阜総合は⑤大野がこのピリオドだけで2本の3点シュートを含む12得点をあげる活躍で追い上げる。前半を終わって美濃加茂が37-35とわずか2点のリードとなる。

第3ピリオド、美濃加茂はシュートが落ちて⑥范、⑧赤土がセカンドチャンスで得点をあげ、次第に点差を広げていく。しかし、岐阜総合もタイムアウトを取ってリズムを変えると、④谷、⑤大野の3点シュートが連続で決まり追い上げていく。第3ピリオドが終わっても美濃加茂が59-55とわずかにリードを保つ。

第4ピリオドに入ると、美濃加茂は相手の3点シュートを楽に打たせないディフェンスをし、リバウンドから積極的に速攻に走り、徐々に点差を開く。美濃加茂は最後まで落ち着いたプレーでゲームをコントロールして89-77で勝利し、3戦全勝で県総体の優勝を飾るとともに全国総体への出場権を勝ち取った。岐阜総合は④谷が5本、⑤大野が3本の3点シュートを決めるなど、最後まで粘り強く戦ったが、逆転することはできなかった。(高木大志)

決勝リーグ	岐阜農林 (1勝2敗)	73	$\begin{bmatrix} 17 & - & 22 \\ 16 & - & 9 \\ 26 & - & 24 \\ 14 & - & 14 \end{bmatrix}$	69	富田 (3敗)	大江裕之・篠田義貴
-------	----------------	----	---	----	------------	-----------

岐阜農林はハーフコートマンツーマン、富田はオールコートマンツーマンでスタートする。岐阜農林は⑬浅村の3点シュート、⑭吉田のミドルシュートで先行する。富田は④石田のミドルシュート、⑬山田の3点シュートが決まり逆転する。第1ピリオドは、富田が22-17とリードする。

第2ピリオド、岐阜農林は⑪田中、⑫水口のミドルシュートが当たり始め、すぐさま逆転に成功する。しかし富田も⑥安藤のゴール下シュートなどで追いかけ、接戦となる。第2ピリオドは岐阜農林が33-31と2点リードで折り返す。

第3ピリオド、岐阜農林が⑪田中のミドルシュート、⑭吉田のドライブなどで得点をあげれば、富田は⑤加藤のミドルシュート、⑥安藤のゴール下シュートで入れかえし、一進一退の攻防となる。第3ピリオドが終わり、岐阜農林が59-55と4点リードする。

第4ピリオド、岐阜農林は⑫水口、⑬浅村、⑭吉田のミドルシュートが決まり、9点差をつける。その後相手の追い上げにあうが巧みに相手ディフェンスをかわし、リードを守りきって73-69で勝ち、第3位となって東海総体への出場権を得た。富田は⑬山田、⑭桑原、⑮大野が3点シュートを決め必死の追い上げを見せるが、あと一歩及ばなかった。(野々村浩二)

女子の部

<審判>

5位決定戦	高山西	82	$\begin{bmatrix} 20 & - & 17 \\ 16 & - & 22 \\ 26 & - & 7 \\ 20 & - & 13 \end{bmatrix}$	59	大垣商	辻角政治・三宅浩平
-------	-----	----	---	----	-----	-----------

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	135	$\begin{bmatrix} 34 & - & 18 \\ 38 & - & 14 \\ 47 & - & 6 \\ 16 & - & 14 \end{bmatrix}$	52	県岐阜商 (2敗)	池戸正至・菅野浩
-------	--------------	-----	---	----	--------------	----------

両チームともにハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子はプレッシャーの強いディフェンスでボールを奪い、速攻で得点を重ねていく。さらに⑦アイダのリバウンドシュートやゴール下シュートで点差を広げていく。県岐阜商は5分過ぎからダブルチームを仕掛け、⑩津谷の速攻などで得点をあげる。第1ピリオドは34-18と岐阜女子がリードして終了する。

第2ピリオド、岐阜女子はオールコートマンツーマンで相手にプレッシャーをかけると、⑤米谷のドライブや⑦アイダのゴール下シュートなどで加点していく。県岐阜商は⑫中嶋の2本の3点シュートや⑪市原のインターセプトからの速攻などで粘るが、点差を詰められない。前半は、岐阜女子が72-32とリードして終わる。

第3ピリオド、両チームともハーフコートマンツーマンで始まる。岐阜女子はディフェンスの精度を高め、相手の得点を止めると、④小林の確率の高いシュートや⑤米谷の3点シュートなどで加点していく。また、途中からベンチメンバーを出場させオールコートマンツーマンを仕掛け、さらに大きく点差を広げ、119-38で第3ピリオドを終了する。

第4ピリオドに入ると、岐阜女子はベンチメンバーを中心に出場させるが、オールコートマンツーマンでプレッシャーを緩めない。ゴール下を支配し、最後までよく走った岐阜女子がリードを守り、135-52で勝ち、決勝リーグ2勝目をあげた。県岐阜商は⑤大西、⑮塚原のインターセプトからの速攻などで得点し、集中力を切らさずプレーを続けたが、相手の高さやスピードに及ばなかった。(武藤哲平)

決勝リーグ	岐阜総合 (2勝)	79	$\begin{bmatrix} 15 & - & 19 \\ 22 & - & 12 \\ 25 & - & 5 \\ 17 & - & 15 \end{bmatrix}$	51	土岐商 (2敗)	室谷伸治・古田怜
-------	--------------	----	---	----	-------------	----------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。土岐商は、⑤大澤のドライブ、⑮原(舞)、④深津の3点シュートなどで得点をあげれば、岐阜総合は⑥越田が6本のゴール下シュートで粘り、互角の展開に持ち込む。第1ピリオドは、土岐商が19-15とリードする。

第2ピリオド、岐阜総合は④鈴木、⑮片桐が3点シュートで追い上げ、残り2分には、⑦伊藤のドライブで逆転に成功。その後も⑤小西、⑮片桐が3点シュートを決め、前半は岐阜総合が37-31とリードして折り返す。土岐商は⑬落井、⑮原(舞)がボールをスティールして得点に結びつけるが、相手の激しいディフェンスに思うようにシュートを決められない。

第3ピリオド、岐阜総合はオフェンスリバウンドをよく頑張り、インサイドでは⑥越田、アウトサイドからは④鈴木、⑤小西が次々にシュートを決め、点差を広げていく。土岐商はディフェンスをマッチアップゾーンに変えるなど、流れを取り戻そうとするが、シュートが決まらず、このピリオドわずか5点に終わる。

第4ピリオド、岐阜総合は激しいディフェンスを緩めず、相手の追い上げを許さない。岐阜総合はベンチメンバー全員を出場させて、79-51で逃げ切り、決勝リーグの2勝目をあげた。土岐商は④深津、⑮原(舞)の3点シュートが決まり追い上げを図るが、点差を縮めることができなかった。(林紗規子)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	105	$\begin{bmatrix} 30 & - & 5 \\ 12 & - & 17 \\ 31 & - & 20 \\ 32 & - & 11 \end{bmatrix}$	53	岐阜総合 (2勝1敗)	菅野恵美子・廣瀬卓哉
-------	--------------	-----	---	----	----------------	------------

2勝同士で迎えた決勝リーグ最終戦。岐阜女子はオールコートマンツーマン、岐阜総合はハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は激しいディフェンスからリズムをつかみ、⑥野澤、⑦アイダ、⑫近田が速攻に走り、ハーフコートオフェンスでも④小林、⑩坂田のドライブを起点に⑦アイダのゴール下シュートなどで次々に得点をあげる。岐阜総合は相手ディフェンスを攻めきれず、得点をあげられない。第1ピリオドで岐阜女子が30-5と大きくリードする。

第2ピリオドに入ると、岐阜女子は⑦アイダのインサイドプレーや④小林のミドルシュートで得点をあげるが思うほどスコアを伸ばせない。逆に岐阜総合はゲームのリズムに慣れ、⑥越田のハイポストからの1on1や④鈴木の3点シュート、⑮片桐のジャンプシュートで少しずつ点差を詰めていく。前半を終わって岐阜女子が42-22とリードを保つ。

第3ピリオド、岐阜女子はスピードある攻撃で④小林、⑩坂田のアウトサイドシュート、⑦アイダのインサイドプレーや速攻で着実に得点を重ねる。岐阜総合も⑥越田のポストプレーや④鈴木、⑤小西の3点シュートなどで追いかける。

第4ピリオドに入っても岐阜女子は早いパスワークから⑤米谷のドライブ、④小林、⑩坂田のミドルシュート、⑥野澤のジャンプシュートでさらに得点を伸ばしていく。最後まで激しいオールコートディフェンスをし、疲れをみせず走りきった岐阜女子が105-53で勝ち、県総体の優勝を飾り、全国総体の出場権を得た。岐阜総合は、ディフェンスを2-3ゾーンに変えてリズムを作り、④鈴木のドライブや⑥越田のリバウンドシュートで得点するが、最後まで走りきることはできなかった。(吉福司)

決勝リーグ	土岐商 (1勝2敗)	58	$\begin{bmatrix} 12 & - & 13 \\ 15 & - & 10 \\ 23 & - & 14 \\ 8 & - & 4 \end{bmatrix}$	41	県岐阜商 (3敗)	松野瑞穂・加藤文
-------	---------------	----	--	----	--------------	----------

東海総体への切符をかけて対決する決勝リーグ最終戦。両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。県岐阜商は⑥山口のインサイドのシュートで得点し、流れをつかむ。土岐商は⑪原(恵)の連続3点シュートや⑤大野のジャンプシュートで喰らいつく。第1ピリオドは県岐阜商が13-12と1点リードする。

第2ピリオドに入ると、土岐商は⑥林のドライブやリバウンドが決まり逆転に成功。さらに、⑮原(舞)の3点シュートも決まって突き放す。県岐阜商は⑩津谷、⑥山口を中心に粘りを見せるが、思うようにシュートが決まらず、流れを引き戻せない。第2ピリオドは土岐商が27-23と4点のリードを奪う。

第3ピリオド、土岐商は力強いディフェンスとリバウンドでゲームの主導権を握り、⑤大澤、④深津のドライブ、⑮原(舞)、④深津の3点シュートでリズムよく加点していく。県岐阜商は⑩津谷の3点シュート、⑫中嶋の頑張りで粘りを見せるが、追い上げきれない。第3ピリオドを終わり土岐商が50-37とリードする。

第4ピリオドに入ると、両チームとも必死のディフェンスを見せ、互いに得点を許さないが、土岐商が落ち着いたゲーム運びで逃げ切り、58-41で勝って東海総体への出場権を獲得した。県岐阜商もディフェンスプレッシャーをきつくして粘りを見せたが、シュートが決まらず追い上げきれなかった。(林紗規子)